

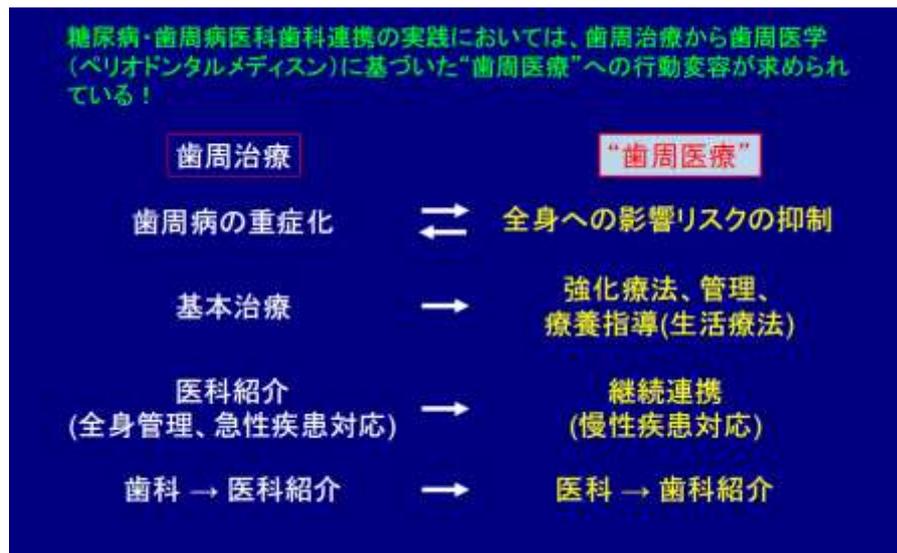
「歯周病のリスク管理は、全身の健康に寄与するか？」  
 — 第 63 回秋季日本歯周病学会学術大会 Bruno G. Loos 先生  
 特別講演 I 「歯周医学の過去・現在・未来」に寄せて—

大会長 三邊 正人

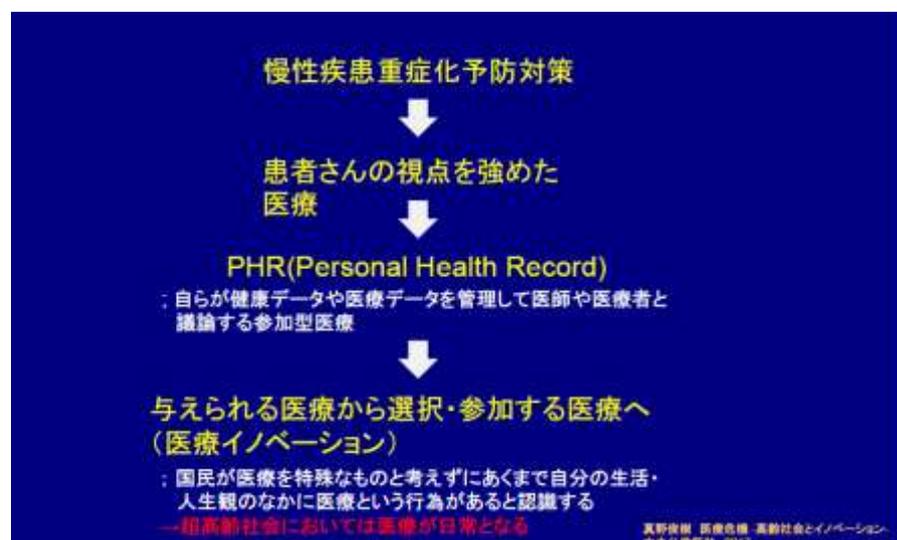
(神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔統合医療学講座 歯周病学分野 教授)

2020年10月16日、17日に金沢で開催予定であった第63回秋季日本歯周病学会学術大会をWEB開催する。そのメインテーマを、「**歯科医科連携による歯周病リスク管理**」とさせて頂いた。「医科歯科」とせず、あえて「**歯科医科**」としたのは、図1に示したように糖尿病と歯周病に代表される医科歯科連携においては、まず、従来型の歯周治療から、歯周医学(ペリオドンタルメディスン)に基づいたいわゆる「**歯周医療**」への歯科からの行動変容が求められているという想いからである(三辺ら 口腔検査学会誌 2018)。また、「**歯周病リスク管理**」という言葉の背景には、慢性疾患重症化予防の実現には、超高齢社会における日常化した医療に対して歯科医師、歯科衛生士そして医療従事者が一丸となったチーム医療の実現が必須という想いがある。(図2)

【図 1】



【図 2】



2019年6月15～17日、横浜で日本抗加齢医学会が「異次元のアンチエイジング」と題して盛大に開催された。異次元とは、健康寿命からさらにステップアップして、百寿社会となった我が国の今後を「幸福寿命」という視点で考えよう！という趣旨である。歯周病も、現在、疾病負荷(口腔の健康は、全身の健康につながる)の観点から新しい方向性がいくつか示されている。口腔疾病としての歯周病も非感染性疾患(NCD)として認識されるようになった。(Lancet 2018)また、平成26年度における日本人の死因上位4疾患(がん、心臓病、肺炎、脳梗塞)の発症リスクを歯周病ケアで10%程度減少できることが示され、健康寿命延伸、医療費適正化、健康格差是正への寄与が期待されている。(Lancet Oncol 2008)これらの背景を基盤に、歯周病も従来の重症度、症候群分類から疾病負荷の観点からステージ(重症進行度+口腔機能評価)とグレード(全身の健康を反映したリスク評価)からなる新分類が今年のヨーロッパ歯周病学会で提唱された。(J Clin Periodontol 2018)日本歯周病学会でもこれに即した歯周病診断分類の策定作業に入っている。グレード分類では、血糖、喫煙の基準値や軽微な慢性炎症の指標である高感度CRPなどの血液検査値、そして歯周病のリスク検査値などが導入され、リスク検査⇒診断⇒治療という医科モデルに準じた疾病管理により、糖尿病などの歯周病関連疾患のいわゆる未病検査に基づく先制医療と健康維持(Precision Medicine & Health Nat Med 2019)を実践する上で有用な診断分類となることが期待できる。さらに、歯周病と糖尿病の医科歯科連携の促進普及を意図した歯科医学会からの要請を受けて「糖尿病関連歯周炎」の保険病名策定に向けて日本歯周病学会において診断基準の検討作業が開始されている。人の老化パターンは生活習慣病の合併に起因した直下型フロー(要介護疾病モデル)と虚弱型フロー(フレイル虚弱モデル)に分類(長寿科学総合研究事業報告2016)されているが、歯周病の進行、歯の喪失パターンもそれと類似したパターンを示すことが長期データベース研究により明らかにされており、Productiveな老後に向けて歯周病や口腔の機能低下(オーラルフレイル)を意識した医科歯科連携によるライフコースアプローチを可能とするための更なるエビデンスの構築と社会体制の整備が望まれている。

本大会では、特別講演の演者として歯周医学研究の第一人者であるオランダACTAのBruno G. Loos先生に「歯周医学の過去、現在、未来」というタイトルでご講演を御願ひしている。本特別講演の紹介内容によって理解、関心を深めて頂き、多数の多職種の方々にLoos先生のご講演を聴いて頂ければ幸いである。(本稿の一部は、千葉県保険医協会新聞2019年7月号、論壇から引用した)